

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年3月6日

ファイザービオンテックワクチン投与と心筋炎：イスラエル若年層

【松崎雑感】

今後、COVID-19ワクチンが毎年継続的に接種されるように推奨されると思いますが、重症化リスクの少ない若年層におけるCOVID-19ワクチンの安全性に関する情報のひとつです。中学校世代（12～15才）では心筋炎が、他の年齢層よりも多く起きることが報告されていますが、今回のイスラエルのデータでは、10万人あたり5人のは発症率で、すべてごく軽症で、後遺症なしに経過したという事です。COVID-19ワクチンの今後の接種プランについての検討資料としていただければ幸いです。

ファイザービオンテックワクチン投与と心筋炎：イスラエル若年層

Witberg G, Magen O, Hoss S, et al. **Myocarditis after BNT162b2 Vaccination in Israeli Adolescents.** *N Engl J Med.* 2022;387(19):1816-1817. doi:10.1056/NEJMc2207270

われわれは2021年に、イスラエルにおけるファイザービオンテックワクチン投与と心筋炎の関連を調査し、16～29才層の男性で最も心筋炎リスクが高いことを報告した（10万人あたり10.7人）。


このワクチンは、その後12～15才層への投与が承認された。その後の調査でこの年齢層における心筋炎発症リスクが16～29才層と同様であると報告されたが、この調査は接種後の追跡期間がわずか30日と言うリミテーションを抱えていた。

香港からは10万人あたり28.7人と言う心筋炎リスクが報告されたが、退院時病名がICD-9に基づく心筋炎であったかどうかを確認していないという問題がある。

今回われわれは、12～15才層におけるワクチン投与から6か月後ならびにそれ以降の心筋炎発症リスクを追跡調査で明らかにした。

イスラエル最大の医療提供組織であるクラリットヘルスサービスの2021年6月2日から11月30日までのデータを解析した。心筋炎の診断は、利用可能なすべての医療データを基にICD-9に基づいて行った。入院中および退院後の医療データは2022年2月26日まで収集された。

結果

182605名の12～15才層がこの期間にワクチンを受け、20例の心筋炎の可能性のある症例が同定された。このうち、9例がCDCの診断基準に基づいて、確定的心筋炎あるいは心筋炎疑い例と診断された。発症リスクは10万人あたり4.8例（95%信頼区間1.7～7.9例）と算定された（）。このうち8例は2回目のワクチン接種後に発症した。

9例すべてが軽症であり、心不全を呈した症例は見られなかった。

心筋傷害あるいは炎症を示す生化学的マーカーの増加が全例に見られた。心電図異常が6例に見られた。

入院中の病状は安定しており、入院期間は平均3日（2～4日）だった。心臓エコー検査で8名が正常な心拍出率を示した。4例に心嚢液貯留が見られた。

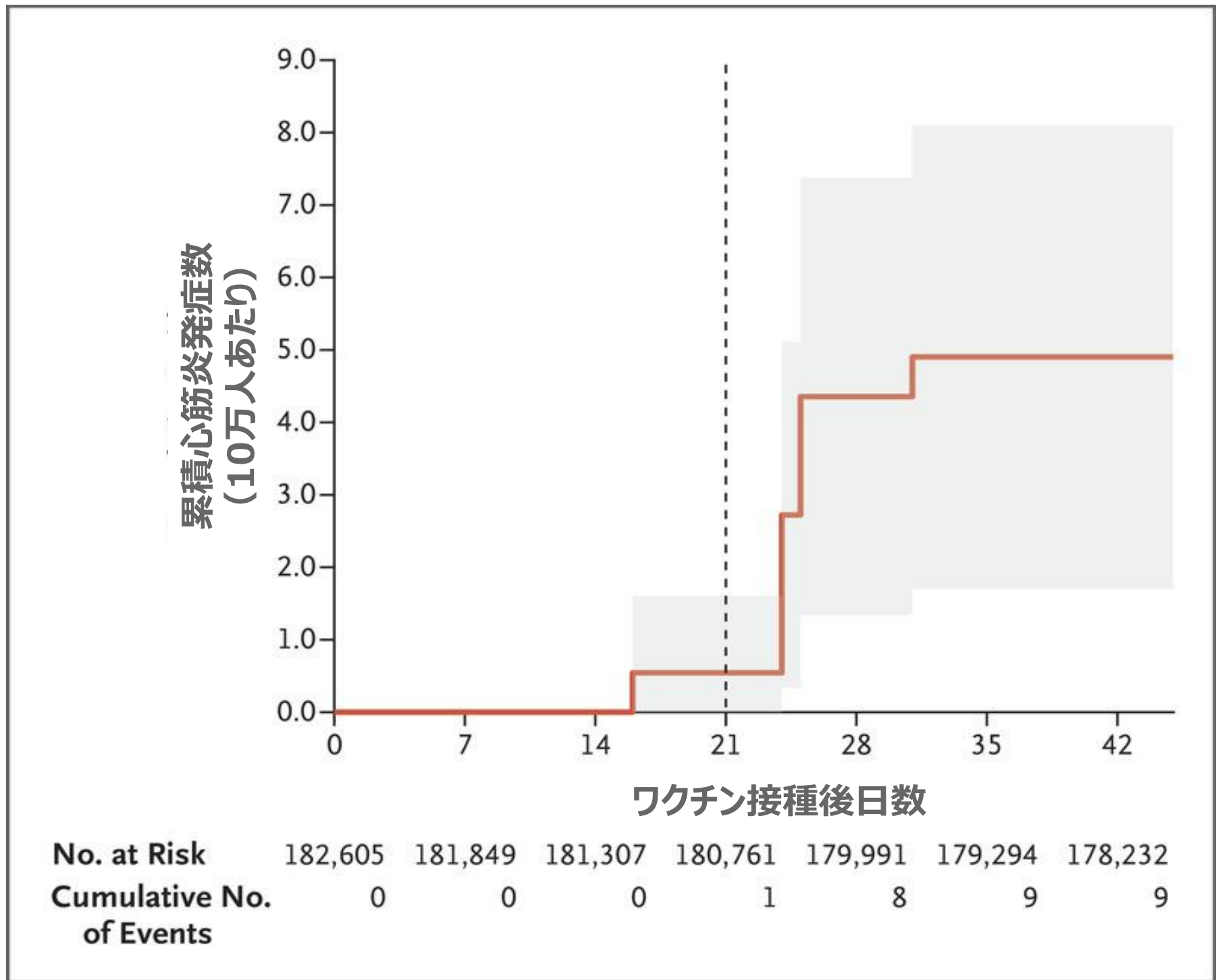


図 ファイザー・ビオンテックワクチン投与後の心筋炎発症リスク（イスラエル12～15才層）

退院から平均10日後の心臓エコー検査（9名中8名）では、心嚢液は見られず、心拍出率は正常だった。5例で心臓MRI検査が行われた。

退院から平均104日後までの時点で、心筋の癒痕性変化（過去の心筋炎症を示す）は極めて少なかった（ガドリニウムで高信号を示す心筋の比率が0～2%）。

退院から平均206日後の時点で、全員生存しており、再入院した者はいなかった。

結論

今回の調査で、12～15才層におけるワクチン接種後の心筋炎リスクは極めて小さいこと、そして、2回目接種後の男性に多く起こることが明らかとなった。

6か月の追跡で、全例軽症で安定した経過であることが分かった。

MRI検査によれば、心筋炎の後遺障害はほとんど見られないことが示唆された。